

「国語科で育てる人間関係形成能力」用 活用の手引き

I 育てたいキャリア能力

○人間関係形成能力

自分や友達の個性を発揮しながら、他人の個性も尊重し、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・協同してものごとに取り組む能力

II キャリア能力の育成を行う教科

1 教科の目標

自分のものの見方や考え方を深め、目的や場面に応じて的確に話したり聞いたりする能力を身に付けさせるとともに、話し言葉を豊かにしようとする態度を育てる。

2 単元(学年)とねらい

単元(学年)	ねらい
グループディスカッション(1) プレゼンテーション(2) パネルディスカッション(3) 【話すこと・聞くことの能力を育成】	<ul style="list-style-type: none"> ・広い範囲から話題を求め、話したり聞いたりして、自分のものの見方や考え方を広めたり、深めたりすること。 ・話の内容や意図に応じた適切な語句の選択、文の効果的な使い方など説得力のある表現の仕方に注意して、話したり聞き取ったりすること。 ・相手の立場や考えを尊重し、話合いが目的に沿って効果的に展開するように話したり聞き分けたりして、自分の考えを深めること。

3 育てたいキャリア能力との関連

自分のものの見方や考え方を話したり聞き取ったりする活動を通じて、自分や友達の考えを尊重しながらコミュニケーション能力を育むことが期待される。

III 指導手順

1 活動の確認

単元としての目標を記入させ、学習のねらいを確認させる。

2 活動の整理

単元の活動をキャリア能力の視点から整理させ、キャリア能力の育成との関連性を明確化する。

3 自己評価

キャリア能力の視点から自己評価させる。このとき、根拠(理由)を書かせる。よさや課題を具体的な根拠(理由)をもって評価させることで、それを基に目標を立てさせる。

<自己評価例> 第2学年	<記述を見取る観点>
書いた文章にそって発表できたが、自分の言葉で発表することができず、分かりにくい発表だったことが課題です。	<p>【経験した活動を具体的に振り返り学んだことが明確化できているか】 「自分の言葉で発表することができず、分かりにくい発表」</p> <p>↓</p> <p>経験した具体的な課題を明確化して、分かりにくかったと評価している。</p>

4 行動目標の立案

教科の活動を通して学び、気付いたキャリア能力をこれからの活動に関連付ける。単なる目標とならないよう理由を付けさせるように工夫させる。

<行動目標例> 第2学年	<記述を見取る観点>
話し合い活動などの場面では、発表がぎこちなくなってしまうので、やさしい言葉を選んだり、分かりやすい話し言葉で相手に自分の考えが伝えられるように心がける。	<p>【明確化した評価を生かす具体的場面を想定しているか】 「話し合い活動の場面」</p> <p>【これからの生活に一般化しようとする目標になっているか】 「やさしい言葉を選んだり、分かりやすい話し言葉で相手に自分の考えが伝える」</p> <p>↓</p> <p>分かりにくい発表だったという反省から、「やさしい言葉」「話し言葉」という具体的な対策を考えて解決しようとする目標を立てている。</p>

5 総合的な自己評価

国語科では、繰り返しキャリア教育を学ぶので、今までの活動を総合して自己評価をさせ、達成度合いを測らせる。自己評価には、評価項目ごとに4点満点で判定して総合点を計算させる。